

1 設置目的

登山研修所は、わが国における登山の健全な発達を図るため、登山指導者養成のための研修訓練を行い、あわせて登山に関する調査研究を行うことを目的とする。

Ⅱ 名称及び位置

(1) 本館

名称 文部省登山研修所

位置 富山県中新川郡立山町大字芦峯寺ブナ坂（千寿ヶ原）

電話 上滝局（0764）—82—1211～2

(2) 前進基地

名称 文部省登山研修所夏山前進基地

位置 富山県中新川郡立山町大字芦峯寺ブナ坂外11

国有林123イ林小班（剣沢）

名称 文部省登山研修所冬山前進基地

位置 富山県中新川郡上市町大字千石字南無阿弥陀外4

国有林136ろ林小班（千石）

Ⅲ 沿 革

昭和38年、39年の冬山登山において遭難事故が続発したことにかんがみ、文部省は、山岳遭難事故を未然に防止するためには、登山指導者の養成を行い、正しい安全な登山を普及することが急務であるという見地から、研修施設を設置することとした。

昭和39年春、関係者による施設を設置するための調査検討が進められ、富山県中新川郡立山町大字芦峯寺ブナ坂（通称千寿ヶ原）に設置することが最も適しているという結論を得た。

昭和40年度予算で敷地購入費及び調査設計費約1600万円が計上された。

用地は、農林省林野庁名古屋営林局から有償所管換えを受けた。

敷地測量	北日本測量株式会社
地盤調査	やまと地質調査株式会社
設 計	梯石原設計事務所

昭和41年度には、施設建設のための予算として約5,500万円が計上され、文部省管理局教育施設部及び富山大学施設課の監督のもとに、佐藤工業株式会社が施工した。

昭和41年7月1日に起工式を行い、翌42年1月31日に竣工した。

昭和42年6月1日に、文部省設置法施行規則の一部改正があり、登山研修所の名称、位置等が定められ、ここに正式に発足した。

概要は、次のとおりである。

沿 革 の 概 要

昭和39年	富山県中新川郡立山町芦峯寺ブナ坂（千寿ヶ原）に登山研修所を設置することを決定
41年 7月	登山研修所起工式
42年 7月	登山研修所開所式
43年10月	夏山前進基地（剱沢）竣工
44年12月	冬山前進基地（千石）竣工
46年 3月	ロッククライミング訓練施設竣工
49年12月	トレーニング室竣工
54年 3月	超短波業務無線局（もんぶたてやま）開局
54年 3月	山岳模型（剱岳周辺地形模型；縮尺1：3000）設置
54年 9月	夏山前進基地増築
55年10月	山岳トレーニングコース竣工
62年 1月	研修所庁舎大浴場改修
63年12月	ロッククライミング訓練施設改修及び測定室・照明塔新設
平成 2年12月	車庫改築
4年 3月	冬山前進基地改修
5年12月	山岳スキー訓練場拡張
7年 9月	夏山前進基地増築
8年 3月	スポーツクライミング用人工壁設置（トレーニング室内）
8年 9月	夏山前進基地改修（室内模様替）

Ⅳ 研修事業

1 研修会及び講習会

(1) 研修会及び講習会要項

① 高等学校・高等専門学校登山指導者研修会研修要項（昭和49年度まで）

第1 目的

高等学校・高等専門学校における登山部の指導者に対し、登山に関する基礎的知識と実技についての研修を行い、指導者としての資質の向上をはかる。

第2 研修期間

研修会を夏山・冬山・春山の3期に分け、これをすべて修了して基礎研修を終わる。
各研修会の期間は7日間とし、合計21日を標準とする。

第3 研修内容

研修内容は講義・実技・研究討議の三つに大別する。

1 講義内容

- (1) 登山の変遷，リーダーと隊員の資格について，高等学校・高等専門学校登山の諸問題など
- (2) 山の気象とその判断，地形，地図，地質，岩石，雪氷とくに雪崩など
- (3) 救急法，体力，疲労，トレーニング，健康管理など
- (4) 登山計画，装備，食糧など
- (5) 各地万山岳の特性，山の動植物，星のみかた，自然保護など

2 実技内容

(1) 歩行技術

A 夏山研修会

- ア 歩きかた，休憩のとり方，オーダーとリーダーの位置，疲労者の処置，歩行中の地図のよみ方と利用
- イ 荷物のパッキング，装備，食糧の点検
- ウ 岩場，ガレ場，やぶ，沢などにおける歩行とその判断
- エ 雪渓上の歩行（登降と横断）とその判断
- オ ピッケル，ザイルの使用法

B 冬山研修会

- ア 雪質，気象の変化，雪崩の危険に対する判断，寒気に対する処置

イ 深雪歩行とくにわかんじきの使用法

ウ ピッケル，アイゼンの使用法

エ スキー利用の登降

C 春山研修会

ア 雪質の判断，雪質がちがう場合の雪上登降ルート of 判断

イ アイゼン，ピッケル，ストックの使用法（歩行，カッティング）

ウ スキー利用の登降

(2) 登はん技術

A 夏山研修会

ア 岩の見方，登降ルート of 判断

イ 岩場の登降

ウ ザイルの使用法

B 冬山研修会

ア 深雪中におけるラッセル，危険に対する判断

イ 深雪，極寒時におけるアイゼン，ピッケル，ストックの使用による登はん

ウ わかんじき，アイゼンの併用による登はん

エ ザイルの使用法

C 春山研修会

ア 雪質差によるピッケル，アイゼンなどの使用法

イ ザイルの使用法

ウ 雪，岩のまじったところの登降

(3) 生活技術

A 夏山研修会

ア 生活態度・・・生活時間と規律，健康管理，マナー，清潔，整頓など

イ 夏山幕営の基本的な問題・・・風雨，出水，漏水など

ウ 設営技術・・・位置の設定，設営法，焚火法

エ 山小屋利用に対する注意

オ 炊 事

カ 気象観測，天気図の作成，観天望気などによる行動の判断

B 冬山研修会

ア 生活態度・・・生活時間と規律，健康管理，マナー，清潔，整頓など

- イ 冬山幕営の基本的な問題・・・積雪，雪崩，風，寒気など
- ウ 設営技術・・・位置の設定，設営法，換気，焚火法
- エ 山小屋利用に対する注意
- オ 炊事，テント内の処理
- カ 雪洞，イグルーの建設
- キ ビバーク，小屋がけ

C 春山研修会

- ア 生活態度・・・生活時間と規律，健康管理，マナー，清潔，整頓など
- イ 春山幕営の基本的な問題・・・雪質，雪崩，気温の昇降，衣服，雪盲など
- ウ 設営技術・・・位置の設定，設営法，焚火法
- エ その他冬山に準ずる

(4) 危急時対策（夏・冬・春山研修会を通じて）

- ア 荒天，風雪，吹雪，雷などにおける判断
- イ 事故発生時における判断，処置，連絡など
- ウ トランシーバーの使用法
- エ 救急法
- オ 負傷者の運搬など

3 研究討議

研究討議は講義，実技において研修した事項をとりあげ討論するとともに次のような議題もとりあげる。

- (1) 高等学校・高等専門学校教育と登山
- (2) 登山部活動の課題
- (3) 登山の地域差の問題
- (4) 遭難事故と責任の問題
- (5) その他

第4 研修会実施上の留意点

- 1 研修内容は高等学校・高等専門学校登山部の指導者として修得しておかなければならないものであり，とくに次の事項に重点をおいて実施する。

- (1) 登山指導者としての心がまえ
- (2) 登山の基礎的知識と技術の取得および登山に関する知識技術の指導法
- (3) 高等学校・高等専門学校の登山部活動における指導上の諸問題を中心とした研究

討議

- 2 議義内容は登山に必要な基礎的知識に重点をおく。

技術、装備などに関する講義および研究討議は現地で実習をかねて実施するなど
で効果をあげるようにする。

- 3 実技の内容は基礎的技術の研修を中心とし、その安全な指導法についても実施することとし、応用的な登はんなどは原則として行わない。
- 4 危急時対策は夏山、冬山、春山の各研修会を通じて実施する。
- 5 研修会終了時には修了証を授与する。

② 大学山岳部リーダー研修会研修要項(昭和49年度まで)

第1 目 的

大学山岳部員に対して、登山に関する基礎的知識と実技についての研修を行い、リーダーとしての資質の向上を図る。

第2 研修期間

研修会は、夏山・冬山・春山研修会の3期に分け、これをすべて終了して、基礎研修を終わる。

各研修期間を7日間とし、合計21日間を標準とする。

第3 研修内容

研修内容は、講義・実技・研究討議の三つに大別する。

1 講義内容

- (1) 登山の変遷、リーダーと隊員の資格について、大学山岳部の諸問題
- (2) 山の気象とその判断、地形・地図・地質・岩石・雪氷特に雪崩など
- (3) 救急法、体力・疲労・トレーニング・健康管理など
- (4) 登山計画・装備・食糧など
- (5) 各地方山岳の特性、山の動植物、星の見方と天測、自然保護など

2 実技内容

(1) 歩行技術

A 夏山研修会

ア 歩き方、休憩のとり方、オーダーとリーダーの位置、疲労者の処置、歩行中の地図の読み方と利用

イ 荷物のパッキング、装備、食糧の点検

⑥ 集団登山指導者研修会研修要項(昭和49年度まで)

第1 目 的

集団登山(夏山および無雪地域の登山に限る)の指導者に対して 集団登山に必要な知識と登山技術に関する研修を行い、指導者としての資質の向上をはかる。

第2 研修期間

研修会の研修期間は5日間を原則とする。

第3 研修内容

研修内容は、講義、実技、研究討議の三つに大別する。

1 講義内容

- (1) 集団登山の意義、指導者としての心構え、集団行動時における心理、集団登山の諸問題など
- (2) 事前調査、事前事後指導、計画の立て方、パーティー編成の方法とその運営、装備、食糧輸送、安全対策、危急時対策など
- (3) 夏山気象とその判断、地形・地図・地質・岩石・動物植物、自然保護
- (4) 健康管理、山の医学、救急法

2 実技内容

(1) 歩行技術

歩き方、ペースのとり方、休憩のしかた、登山行動中の連絡法、登山隊編成と引率法、疲労者の早期発見と処置、岩場・ガレ場・やぶ・沢などの歩行と通過、雪渓の判断とその登降および横断、装備、食糧の点検、背負い方

(2) 生活技術

- ア 生活時間と規律、健康管理、マナー、清潔整頓
- イ 天幕設営地の選定、設営法、山小屋の使用上の心得、炊事に関する技術
- ウ 気象観測と行動の判断

(3) 危急時対策

- ア 台風、雨、風、雷などにおける判断と処置
- イ 事故発生時における判断、処置、連絡
- ウ 安全に誘導するためのザイルの使用法、救助法
- エ トランシーバーの使用法
- オ 救急法

3 研究討議

研究討議は、講義、実技での問題点を取りあげて討議するとともに、次の事項もとりあげる。

- (1) 集団登山のありかた
- (2) 集団登山の計画と実施
- (3) 野外活動の集団登山
- (4) 集団登山の事故防止と責任
- (5) その他

第4 研修会実施上の留意点

1 研修では次の事項に重点をおく

- (1) 集団登山指導者としての心構え
- (2) 集団登山の意義
- (3) 計画のたてかたと準備
- (4) 安全対策
- (5) 実施と指導上の問題を中心とした研究討議

2 講義は集団登山に必要な知識のうち、とくに計画のたてかたと安全対策に重点をおく。

3 実技は指導者の登山技術の向上をはかるとともに集団登山における安全確保に対する判断などの修得に重点をおく。

4 研修会修了時には修了証を授与する。

文 部 省 登 山 指 導 者 研 修 会

研 修 要 項 (昭 和 5 0 年 度 か ら)

(高等学校・高等専門学校登山指導者、大学山岳部)
(リーダー、一般山岳団体指導者 研修会)

目 的	期 間	研 修 項 目	内 容
登山に関する基礎的知識 と実技並びにその指導法 について研修を行い、指 導者（リーダー）として の資質の向上を図る。	春山研修会 7 日間	講 義 登山の基本的諸問題	登山の心がまえ 登山史 リーダーシップ・メンバーシップ 団体の運営と管理 事故と責任 自然保護
	夏山研修会 7 日間	自然科学的な知識	山の気象 地図・地形・地質 積雪と雪崩 登山の医学 健康管理 トレーニング
	冬山研修会 7 日間	登山計画	山の動植物 山と天文 登山の準備 登山の食糧 登山の装備 山の危険 救急法 遭難救助組織
	ただし昭和53 年度から一般 山岳団体指導 者研修会は春 山を、 <u>高等学 校・高等専門 学校登山指導 者研修会は、 春山・冬山の 各研修会を行 なわない。</u>	実 技 歩行技術 生活技術 岩登り技術 氷雪技術 山岳スキー技術 危急時対策 研 究 協 議 高等学校・高等専門学校山岳部（登山部）の運営上の 諸問題 大学山岳部の運営上の諸問題 一般山岳団体の運営上の諸問題 実技指導上の諸問題 その他	

研 修 内 容

(高等学校・高等専門学校登山指導者，大学山岳部
リーダー，一般山岳団体指導者 研修会)

研 修 項 目		内 容
講	登山の基本的諸問題	登山の心がまえ 登山史 リーダーシップ・メンバーシップ 団体の運営と管理 事故と責任 自然保護
	自然科学的な知識	山の気象 地図・地形・地質 積雪と雪崩 登山の医学 健康管理 トレーニング 山の動植物 山と天文
	登山計画	登山の準備 登山の食糧 登山の装備
	危急時の対策	山の危険 救急法 遭難救助組織
義		

		無 雪 期		積 雪 期	
研修項目		内 容	留 意 点	内 容	留 意 点
実 行 技 術	歩	出発準備 人数，健康状態の確認 目的，行程，連絡方法 の徹底 天気予報 パッキング，装備，食 糧の点検	周囲の状況・天 候	出発準備 人数，健康状態の確認 目的，行程，連絡方法 の徹底 天気予報 パッキング，装備，食 糧の点検	雪質・雪崩・雪 庇・落石・天候 等に対する判断 と処置 歩行速度と行程
	技	歩き方の基本 登下降法，ペースの取 り方，休憩の取り方， 水の飲み方，地図の読 み方，オーダーとリー ダーの位置，疲労者の 処置 雪渓上の歩行 雪渓の登下降における ルートの選定と危険の 判断 雪渓の登下降の技術 キックステップ，ス テップカッティング 等 基本姿勢，一点支持 滑落停止 固定ザイルの使用法 ガレ，草付の登下降 沢歩き，渡渉，やぶこぎ		歩き方の基本 ペースの取り方，休憩 の取り方，水の飲み方， 地図の読み方，オーダ ーとリーダーの位置， 疲労者の処置 軟雪における歩行 つぼ足 わかんじき ラッセル技術 堅雪上の歩行 キックステップ，ステ ップカッティング アイゼン技術 滑落停止	
技		生活の基本 時間と規律，健康管理 自然保護，天候判断 幕営 天幕の種類と特徴 用具の確認	崩落・ルートの 選定	生活の基本 時間と規律，健康管理 自然保護，天候判断 幕営 天幕の種類と特徴 用具の確認	積雪・雪崩・風 ・寒気

		無 雪 期		積 雪 期	
研修項目		内 容	留 意 点	内 容	留 意 点
実 技	生 活	場所の選定 設営技術（張り方，撤収） 生活上の注意	風雨・出水・漏水 整理整頓・火気使用	場所の選定 設営技術（張り方，撤収，防風壁） 生活上の注意	 整理整頓・火気使用・換気除雪
		簡易露営 場所の選定 地形・用具の活用 不時露営 決定の時機，場所の選定，定形・用具の活用，食糧管理，健康管理 脱出の時機	 天候の変化に対する判断と処置 天候の変化に対する判断と処置	雪洞とイグルー 型式と選択基準 用具の選定 場所の選定 構築技術 生活上の注意	 地形・雪量・収容人員等により決定 雪崩・吹溜り 作業中の防湿，疲労 防湿・換気・整理整頓 崩壊・埋没
	技 術			山小屋の使用 生活上の注意 簡易露営 場所の選定 地形・用具の活用 不時露営 決定の時機 場所の選定 地形・用具の活用 食糧管理・健康管理 脱出の時機	 整理整頓・後始末 天候の変化に対する判断と処置 天候の変化に対する判断と処置
		炊事 用具の点検，使用法 食糧，献立の確認	 火気使用 食中毒	炊事 用具の点検，使用法 食糧，献立の確認	 火気使用 食中毒